

しまね農業の未来を開く 農業技術センターの役割と成果



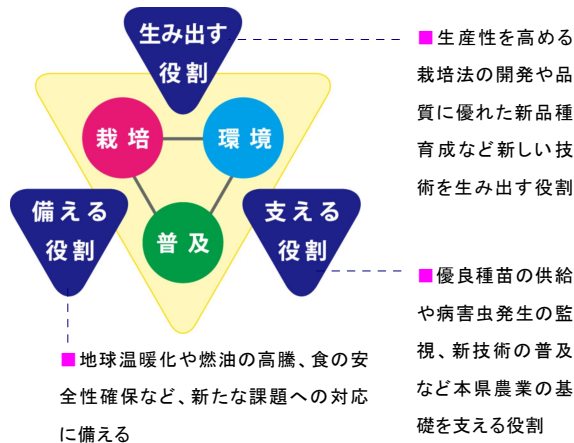
H31.4月版

土地建物の概要

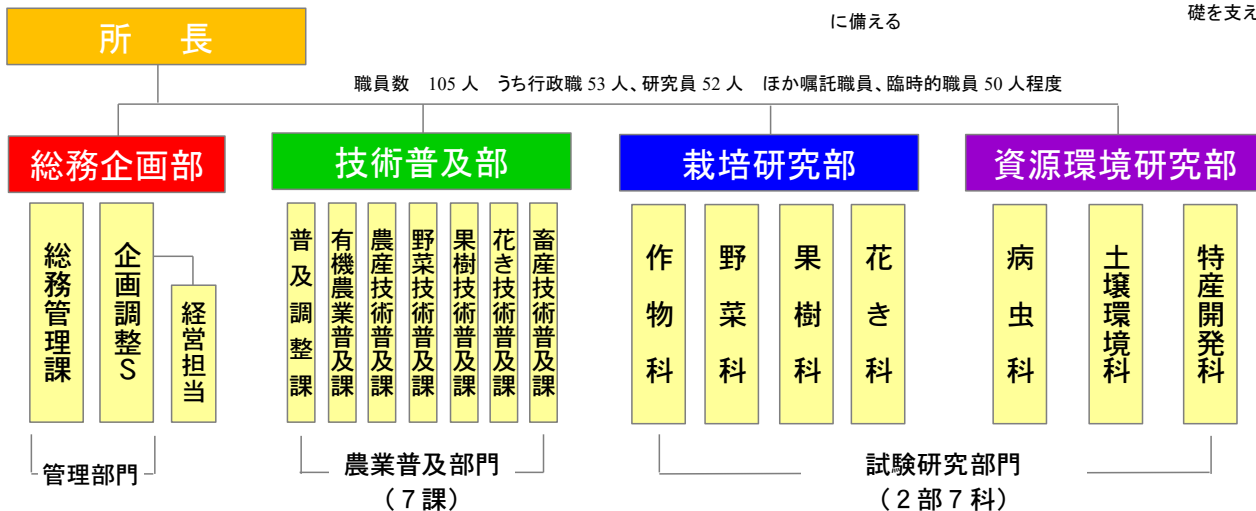
農地	11.4ha
うち	田 4.2ha 普通畑 2.4ha 樹園地等 4.8ha
宅地等	14.3ha
うち	本館棟 6,196 m ² 付属舎 13,977 m ²

農業技術センターの役割

農業の新技术開発、環境保全及び経営の合理化に必要な試験研究、調査、分析、種苗の保存配付、技術指導並びに普及に関する指導及び調査研究に関する業務を行わせるため、農業技術センターを設置する。(島根県行政組織規則第47条)



農業技術センター組織



オリジナル品種の育成

■醸造適性の高い水稻新品種‘縁の舞’



‘山田錦’にかわる島根オリジナル酒米の育成を目標に、‘縁の舞’を育成し、平成31年2月に品種登録出願公表。玄米が大粒で収量が安定して高く、穂発芽しにくく、玄米品質も良好。心白の発生程度及び70%精米時の醸造適性は‘山田錦’に近い。水稻奨励品種の有力候補として県内産地において試験栽培中。

上段：‘縁の舞’、下段：‘山田錦’

■そば‘出雲の舞’^{まい}



島根オリジナル品種の育成を目標に、早生で倒伏に強い‘牡丹そば’を母、出雲そばとして良食味の‘横田在来’を父として、交配育種により新品種‘出雲の舞’を育成。収量性や倒伏性を改良し、

食味も良好。平成24年から本格栽培が始まり、県内蕎麦店に提供されている。

■アジサイ‘万華鏡’‘銀河’‘茜雲’



豪華な花が人目を引く島根オリジナルアジサイ‘万華鏡’‘銀河’は共に国内最大の新品種コンテストで最高賞「フラワー・オブ・ザ・イヤー」を

獲得。産地を牽引する主力品種として広く普及。さらに、草姿がコンパクトで早期出荷が可能な‘茜雲’を平成29年4月に品種登録出願公表。

■ブドウ新品種‘神紅(しんく)’



平成18年から、栽培しやすく、大粒で良食味なブドウの育成を目指して交配・選抜を行い、本県オリジナル新品種‘神紅’を平成30年5月に品種登録出願公表。

本品種は皮ごと食べられ、独特のマスカット香がある上、従来の赤色系ブドウと比較し着色しやすいことが特徴。平成30年より県内産地において試験栽培を開始。

新しい栽培技術の開発

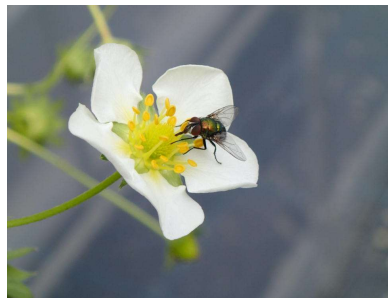
■環境制御によるミニトマト収量の飛躍的向上



温度、飽差、CO₂濃度や養水分量をミニトマトの最適な栽培環境に制御することで、収量が大幅に向上することを確認。県下のリースハウス団

地を中心に実証試験を開始。

■ビーフライによるイチゴ果実品質の向上



ビーフライをミツバチと同時放飼することで、イチゴ果実の高品質化を実現。冬季寡日照期の受粉不良果対策として、全国へ普及中。

■ボタン他切り花の減圧包装・光貯蔵技術



ボタン他の切り花をポリ袋に入れて減圧包装(真空パック)し、光を当てながら低温貯蔵することで長期間鮮度を保ち、また容量が小さくなることで効率的な流通が可能。平成27年に特許取得。ボタンでの活用の他、シャクヤク、キクでの応用を検討中。

環境にやさしい栽培技術の開発

■ 水稲・畑作の有機農業技術の開発

水稲では、農薬を使わない雑草防除方法として



除草機を用いた除草法や、トロトロ層形成による抑草法の確立、さらに食味向上のため、栽培方法と食味の関連を研究。

畑作では、果菜類を主作物とする露地・施設の有機栽培技術を開発。

■ フジコナカイガラムシの性誘引剤



フジコナカイガラムシの性フェロモンの化学構造を明らかにした。合成した性誘引剤の利用により、発生消長の効率的な調査や、雌雄の交尾を阻害し、次世代密度を低下させることが可能。

省エネ・省力化技術の開発

■ 日没後昇温反応を利用した燃料節減



EOD加温（日没後昇温）は、日没から数時間、ハウス内温度を慣行より高く設定し、その後慣行より低い温度で管理する省エネ技術。慣行栽培に比べ生育遅延を招くことなく同等の品質で生産が可能。1月加温の‘デラウェア’の場合、加温燃料を約10%削減。開花期のシクラメンでは約20%、アジサイでは約30%、それぞれ加温コストを削減。

■ 高設イチゴの無育苗栽培方法



イチゴ高設ベンチ栽培において、収穫後の株から発生したランナーを次作苗として直接ベンチに植栽する手法を開発。炭疽病対策にも有効

で、育苗時間が半減し、育苗コストも約7割削減。

技術の普及と経営支援

■ 多様な担い手の確保・育成と成立条件の解明



新規就農者（リースハウス・半農半X）や集落営農法人、農業参入企業などの多様な担い手への経営調査を通じて、持続的・発展的な経営体の育成に向けた課題整理や経営指標及び要点を提示。

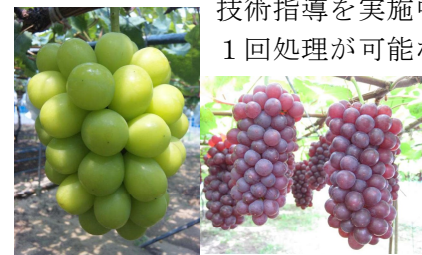
■ 障がい者福祉と農業の連携



障がい者が農作業に従事し、福祉と結びついた農業を実現するため、障がい者が取り組みやすい労働条件や栽培技術、地域での仕組みづくりを推進。

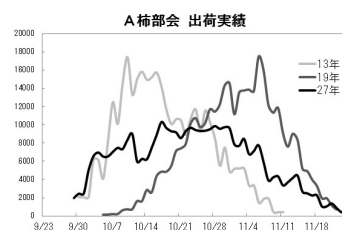
■ ‘シャインマスカット’ 及び優良系統 ‘デラウェア’ の導入推進

ブドウの産地再生に向けて‘シャインマスカット’の導入推進（平成30年50.2ha）と高品質生産技術指導を実施中。新たに、GA1回処理が可能な優良系統‘デラウェア’の改植を推進（平成30年14.6ha）。



左：‘シャインマスカット’、右：優良系統‘デラウェア’

■ 西条柿の出荷予測技術



出荷時期の推定が困難であった西条柿について、主要産地の出荷データと秋季の気温から、出荷予測を行い生産組織に情報提供している。平成27年産では、出荷開始が最も早くなることを周知するなど、販売促進活動に活用。

■ 和牛産地再生に向けた取り組み



放牧等を中心とする子牛の低コスト生産技術の普及、水田や耕作放棄地を活用した飼料米とWCS用稲、飼料作物の生産指導など、地域内自給飼料の活用による和牛産地再生を推進。

危機管理と原種生産など

■ 病害虫の診断と発生予察



県内生産者等から寄せられる病害虫の鑑定依頼に対応するとともに、県内に観測点を設け、水稻など主要作物の病害虫発生を監視するとともに発生予察情報を発し、注意を喚起。

■ 主要農作物の原種、原原種生産と採種指導



県内で栽培される主要農作物（水稻、大豆、二条大麦）の原種、原原種を生産し、農業団体へ供給。また、これらの種子が採種農家で適切な栽培管理が行わ

れるよう、技術普及部が中心となり指導（ほ場審査及び生産物審査）を実施。

■ 農作物の安全・安心対策

高い安全性と優れた品質を備えた県産農林水産物を認証する「美味しまね認証」を推進するため、対象農作物の残留農薬分析を実施。また、環境と調和のとれた農業生産の推進や県産米の安全性に対する信頼性向上のため、土壌肥料対策指針や肥料コスト低減マニュアル、カドミウム等吸収抑制対策技術マニュアル等を作成・掲示。



知的財産権の取得

■ 特許取得数(出願中含む)

発明の名称	共同出願者	出願日	特許番号
抗インフルエンザウイルス剤	保環研、産技センター	H15. 4. 1	特許第4185996号
切り花ボタン類の保存・流通方法	—	H17. 10. 6	特許第4565094号
フジコナカイガラムシの性誘引剤	農研機構、福岡県	H18. 4. 19	特許第4734553号
加工食品の水分量測定方法	広島大学	H19. 9. 7	特許第5458287号
α-リノレン酸およびロスマリン酸を高度に保持した植物茎葉乾燥粉末の製造方法	産技センター、(株)山海	H21. 5. 29	特許第5644991号
アクアガスを用いて調整した加熱・殺菌・乾燥植物とその調製方法	(独)食総研	H22. 3. 31	特許第5967639号
水田用の除草作業機	三菱マヒンドラ農機(株)	H23. 3. 14	特許第5754800号
マツモトコナカイガラムシの性誘引物質、及び性誘引剤	農研機構	H23. 6. 7	特許第5857369号
果菜類栽培装置及び果菜類栽培方法	鹿島建設(株)	H23. 8. 8	特許第5915832号
切花の保存方法	—	H26. 3. 28	特許第5825614号
切花の保管方法	—	H26. 6. 5	特許第6233885号
除草機	農研機構、みのる産業(株)	H25. 12. 26	(特開2015-123022)
誘引具	—	H28. 6. 9	(特開2017-216956)
自律走行水田除草機	菱農エンジニアリング(株)	H27. 2. 20	(特開2016-152775)

■ 職務育成品種(出願中含む)

<分類>品種名・商標等	
<水稻>	佐香錦(酒米) ミコトモチ(餅米) 緑の舞(酒米)
<アジサイ>	万華鏡 [®] 美雲 [®] 銀河 茜雲
<メロン>	ゴールデンパール [®]
<イチゴ>	いずもびじん [®]
<ソバ>	出雲の舞
<クワ>	蒼楽(食品原料)
<ブドウ>	神紅
<カキ>	豊楽台(台木用)

農業技術センター位置図



【島根県農業技術センター】

〒693-0035 島根県出雲市芦渡町2440
E-mail nougi@pref.shimane.lg.jp

TEL 0853-22-6708 FAX 0853-21-8380

HP <http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/>